

ぐるり39

～自治調査会だより～

2021
12

NO. 099

〔発行日〕
2021.12.1



【写真提供】青梅市 【撮影場所】御岳溪谷

▶シンポジウムを開催しました！

「ひきこもり支援の必要性～多様な生き方を地域で支援する～」… 2

▶オール東京 62 市区町村共同事業

みどり東京・温暖化防止プロジェクト 市町村の取組紹介 …… 3

多摩市 多摩市版クールシェア事業

西東京市 西東京市の環境

小笠原村 自然環境に配慮した遊歩道整備事業

▶多摩交流センターだより

・TAMA市民塾2022年4月開講講座中止のお知らせ …… 4

・東京雑学大学2022年1月講義案内 …… 5

▶編集後記 …… 5

▶多摩・島しょ とっておき歴史発見 ～青梅市～ …… 6



Contents

12月の内容

公益財団法人

東京市町村自治調査会

シンポジウムを開催しました！

「ひきこもり支援の必要性～多様な生き方を地域で支援する～」

【2021年10月19日 府中市市民活動センタープラッツ バルトホール】

当調査会では毎年度、市町村の自治に関する調査研究を行っています。今回、昨年度の調査研究の結果を踏まえ、「ひきこもり支援の必要性～多様な生き方を地域で支援する～」と題してシンポジウムを開催しました。

1. 基調講演

はじめに、文京学院大学人間学部教授である中島修氏による基調講演が行われました。ひきこもり状態にある方の実態、ひきこもり状態にある方への自治体職員の認識のあり方等、当シンポジウムの内容に係る基本的な考え方を解説していただきました。



▲中島 修氏

2. 調査研究結果発表

続いて、当調査会が2020年度に実施した調査研究結果について、当調査会の齋藤研究員から発表を行いました。ここでは、多摩・島しょ地域自治体アンケートの結果に触れながら、多摩・島しょ地域自治体が取り組むべき方策について提言を行いました。



▲齋藤研究員

3. パネルディスカッション

続いて、多摩・島しょ地域の自治体におけるひきこもり支援はどうあるべきか、多様な生き方を地域で支援するにはどうしたら良いか、より理解を深めることを目的に、行政と支援団体という視点から、3名の方に登壇いただきました。基調講演を行った中島氏がコーディネーター役となり、まず登壇者に各々の取組内容を紹介いただき、パネルディスカッションを行いました。

【行政が取り組むひきこもり支援】

- ① 文京区福祉部生活福祉課長の戸靖彦氏から、「自治体におけるひきこもり支援～文京区版ひきこもり総合対策から～」として、区のひきこもり支援センターを主軸に複数の相談窓口や関係機関の連携による一元的な支援体制を構築するひきこもり総合対策について紹介いただきました。

【支援団体によるひきこもり支援】

- ② 認定特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク代表理事の佐藤洋作氏から、「ひきこもるリスクを抱えた若者たちの自立支援システムづくりとその運営」として、若者の生きづらさとそれを支える周囲のあり方などを紹介いただきました。
- ③ 一般社団法人ひきこもり UX会議代表理事の林恭子氏から、「ひきこもりをとらえなおす～当事者とデザインする支援とは～」として、個人の体験談や女性向けの支援の必要性などを紹介いただきました。



▲①戸 靖彦氏



▲②佐藤 洋作氏



▲③林 恭子氏

ここまでの講演や取組の紹介を踏まえ、より具体的なポイントを探るべく、意見交換を行いました。地域での理解促進、地域の実情に応じた支援のあり方、広域での支援体制の構築など多岐にわたるテーマで、基礎自治体によるひきこもり支援について活発な議論となりました。

また、質疑応答では事前にいただいた来場者の質問に対し、各登壇者からそれぞれの知見を踏まえた回答と、ひきこもり支援に取り組む方への提案をいただきました。



▲意見交換の様子



オール東京62市区町村共同事業

みどり東京・温暖化防止プロジェクト

市町村の取組紹介

本プロジェクトでは、自然環境保護及び地球温暖化防止についての普及・啓発を目的とする市区町村の自主事業に対する助成を行っています。本助成を活用して多摩・島しょ地域の自治体で実施された取組を紹介します。

かれんとシーナは、みどり東京・温暖化防止プロジェクトのイメージキャラクターです。

かれん

シーナ



① 多摩市

多摩市版クールシェア事業

国が推奨するクールシェアの多摩市版を、2013年度から市内事業者と連携して、地球温暖化対策の啓発事業として取り組んでいます。

我慢するというイメージがある省エネ活動を楽しみながらお得に行えるよう、趣旨に賛同する協賛店舗・施設から市民へ魅力あるサービスを提供いただき、市民がエアコンを消してまちに出掛け、涼を共有しながら地域の経済活性化にもつなげることが多摩市版の特徴です。

今後も市民の皆さんが楽しみながら省エネ活動を行える事業を社会の変化に合わせてながら実施し、地球温暖化対策に取り組んでいきます。

【問合せ先】多摩市 環境政策課 TEL 042-338-6831



② 西東京市

西東京市の環境

毎年新小学4年生に環境副読本「西東京市の環境」を配布し、自然環境保護や地球温暖化など、高学年で学ぶ環境学習の教材として、各学校で活用しています。また、この付録にある「CO₂削減チェックシート（環境家計簿）」を活用して、市内の全小学5年生に、「夏の省エネ」に毎年チャレンジしてもらっています。具体的には、電気・ガス等の使い方の見直しだけでなく、プラごみや食品ロス削減など、家族みんなで省エネや環境に配慮した行動を生活に取り入れて、自分でどのくらいCO₂を削減できたか集計し、その効果を「見える化」しています。

【問合せ先】西東京市 環境保全課 TEL 042-438-4042



③ 小笠原村

自然環境に配慮した遊歩道整備事業

小笠原諸島に生息する動植物の多くは、偶然島に流れ着き、長い年月を経て島の環境に適応した独自の生態系で構成されています。そのためこれらの固有動植物は環境の変化に弱いのが特徴です。小笠原村では保全と利用を一体としたエコツーリズムによる観光振興を推進しており、エコツアーで利用する遊歩道の整備に自然石と木材のみで修復する「近自然工法」を採用しています。利用者の踏圧と降雨によって起こる土壌流出箇所を専門家の指導を受け現地ガイドとともに補修し植生回復を促すことで、歩道の維持と動植物の保護に取り組んでいます。

【問合せ先】小笠原村 産業観光課 TEL 04998-2-3114





多摩交流センターだより

TAMA市民塾 2022年4月開講講座 中止のお知らせ



TAMA市民塾では、公募による講師と市民の発想・企画運営による新しい生涯学習(楽習)を提供しています。

2020年から続く新型コロナウイルスの感染拡大により、緊急事態宣言が度々発出され、TAMA市民塾においても講座の塾生を募集しながらも開講できない状況が続いています。

TAMA市民塾の講座を開講するには、講師の選定や日程等の調整、カリキュラム内容の決定など準備が必要なことから、**2022年4月開講講座を中止することになりました。**

再開は今後の新型コロナウイルス感染状況をふまえながら、2022年10月開講を目途に準備を進めていきます。講座を楽しみにされていた皆様のご期待に沿えず心苦しくはありますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

また、TAMA市民塾は皆様にユニークで楽しい生涯学習の場を提供できるように、新しくホームページを開設いたしました。

『TAMA市民塾』ホームページ <https://tama-shimin-juku.com>

TAMA市民塾問合せ先

TEL 042-335-0111 (土・日・祝を除く9:00~16:00)

Eメールアドレス tama_shimin_juku@true.ocn.ne.jp

広域的市民ネットワーク活動支援 申請団体募集中!



多摩地域で広域的な市民活動をしてみたい、または、拡充したいとお考えの市民団体を対象に、活動の発表の場等の経費の一部を助成する制度です。

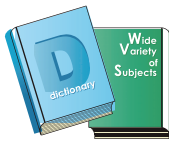
随時相談を受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。

[問合せ先] 公益財団法人 東京市町村自治調査会 事業部 企画課

TEL 042-382-7781



詳細はこちら▶



特定非営利活動法人

東京雑学大学

※受講の際は、必ずマスク着用のこと！

2022年1月講義案内

受講料

1月16日は会員・会員外ともに500円（資料代含む）
その他は会員無料・会員外は1回につき500円

日時	講義テーマ	教授	教場
1月16日(日) 13:30から	【新春特別講座】 余興 和太鼓演奏（田無卑弥鼓） 講演 江戸のリテラシー ー江戸小咄に見る文字環境ー	大石 学 氏 (東京学芸大学名誉教授)	コール田無 多目的ホール (西武新宿線田無駅北口 徒歩7分)
1月20日(木) 14:00から	鳳 笙の源流を尋ねて 一笙はなぜ吹いても吸っても音が出るかー	鈴木 治夫 氏 (笙製作・演奏者・ 元東京芸術大学非常勤講師)	武蔵野スイングホール 南棟10階 スカイルーム (JR武蔵境駅北口 徒歩1分)
1月27日(木) 14:00から	「世界LRT」または 「日本低成長はなぜ？」	中島 啓雄 氏 (元JR貨物鉄道常務取締役・ 元参議院議員)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館3F)

☆申し込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

[問合せ先] TEL 042-465-3741 (浅田) TEL 0422-52-0908 (菅原) 東京雑学大学ホームページ <http://t-zd.life.coocan.jp>

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、2022年1月講義を中止させていただく場合があります。
詳しくは東京雑学大学までお問い合わせいただくか、東京雑学大学のホームページをご覧ください。

「多摩交流センターだより」の問合せ先

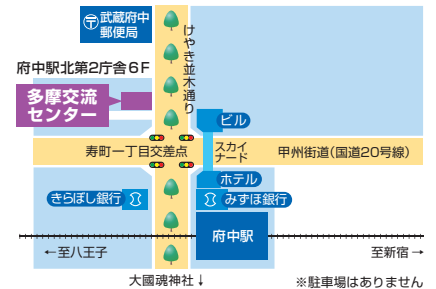
(公財) 東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町 1-5-1 府中駅北第2庁舎6F

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <https://www.tama-100.or.jp>
(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆ 多摩交流センターは、広域的なネットワーク活動の支援、多摩地域市民
交流の場の提供等を目的として活動しています。



編集後記

- 2021年もあと1ヶ月。「我慢(耐える)」、「これから発展する前触れ(芽が出る)」の年とも言われる丑年が終わろうとしています。コロナ禍に耐えた一年でしたが、後半は、ワクチン接種や季節性などの要因からか感染者が減少し、緊急事態宣言解除や、来年前半には治療薬の処方が見込まれるといった報道もあり、ようやく収束に向けた明るい前触れが期待される年だったかと思います。とはいえ、専門家からは、第6波の感染拡大を危惧する声も聞こえ、緊急事態宣言再発出もありえます。収束までは、引き続きマスク着用や手洗いなどの基本的な感染防止に取り組んでいくことが重要です。
- 今年は、スポーツに関する明るい話題が多かった年でした。夏に開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、無観客開催となりましたが、日本が過去最多のメダルを獲得したのははじめ、アスリートによる最高のパフォーマンスは、コロナ禍で落ち込んでいた国民に感動を与えてくれました。また、海外における日本人選手の活躍も目立ちました。なかでも、大リーグの大谷翔平選手の大活躍は目覚ましいものがありました。いわゆる「二刀流」が開花し、ペーブ・ルース以来や大リーグ史上初といった記録を打ち立て、大谷選手の一挙手一投足に日本中が湧きました。ゴルフでは、4月に開催されたマスターズトーナメントの松山英樹選手の優勝や、6月の全米女子オープンでは、笹生優花選手が畑岡奈紗選手との日本人同士のプレーオフを制しました。さらに、テニスでは大坂なおみ選手が2年ぶり2度目の全豪オープンで優勝す

るなど、こうした活躍は、子どもたちにとって、夢を実現できる大きな目標になるものと思います。

- 当調査会が取り組んでいる地球温暖化防止対策関連では、10月に愛媛県出身の真鍋淑郎氏のノーベル物理学賞受賞に感銘を受けました。コンピュータで地球の気候を再現する「気候モデル」を開発し、気候変動予測の基礎を築いたことが評価されたのですが、その気候モデルが、1960年代に確立していたことに驚きを覚えました。一方で、このモデルから得られる地球温暖化の危機を世界中が認識し、脱炭素社会を目指した世界的な取組がもっと早く始まっていたらと多くの方が思ったのではないのでしょうか。
- 今年も異常気象による自然災害が頻発しました。7月、8月と梅雨前線や秋雨前線の活発化による大雨の影響で河川の氾濫や土砂災害が相次ぎました。今回の災害で被害に遭われた方々にお見舞い申し上げるとともに、日頃から重大な災害に備えることを再認識しました。
- 秋には、2年続けて政権交代があり、10月末に衆議院議員選挙が行われ国民の審判が下りました。各党の選挙公約には現金を国民に配る給付金など「分配政策」が並びました。政治家の皆さんには、コロナ後の疲弊した日本経済や国民生活の再生はもちろんですが、全国民が安全・安心に、そして将来に明るい希望の持てる国にするために努めて欲しいと切に願います。「胎動を助ける」とも言われる寅年の来年は、その足掛かりとなる年であることを祈念します。(K・K)



多摩・島しょ

history of tama & tōsho

とっておき歴史発見

第9回

青梅市



身近な場所で歴史を発見！

今回はわたげのボクが『青梅市吉川英治記念館』と『青梅夜具地』を紹介するよ。

青梅市吉川英治記念館



昭和初期を中心に国民文学作家として活躍し、「三国志」や「宮本武蔵」などの作品で知られる吉川英治は、青梅市の名誉市民なんだ。

青梅市吉川英治記念館は、英治が生涯で一番長く住んだ主屋と、東宮御所などを手掛けた谷口吉郎設計の展示館、広大な庭園を中心に構成されているよ。

特に昨年、市の施設としてリニューアルオープンしてから常時公開となった主屋「草思堂」は、明治初期に建てられた養蚕農家を吉川英治が住居として改造し、明治中期に建てられた洋風の書斎と共に青梅市を代表する近代和風建築として記念館の見どころの一つとなっているんだ。

青梅夜具地



大正末期から平成11年頃まで青梅で織られていた布団地などの木綿織物のことを「青梅夜具地」というよ。昭和初期の頃から青梅は木綿夜具地を中心に一大織物生産地となったんだ。

昭和20年代には青梅夜具地は全国の夜具地シェアの6割を占め、織機のガチャっとする音から「ガチャ萬景気」といわれる全盛期を迎えたんだって。

現在では青梅夜具地は生産されていないけど、夜具地を再利用したノートやバッグなどが販売されているよ。

【現地案内】

◆ 青梅市吉川英治記念館

(青梅市柚木町1-101-1)

- ・電話 0428-74-9477
- ・開館時間 10:00～17:00
(最終入館16:30)
- ・休館日 毎週月曜日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は翌平日)
- ・駐車場あり
- ・JR青梅線「二俣尾駅」より徒歩15分
- ・JR青梅線「青梅駅」より都営バス「吉野」行きにて「柚木」バス停下車徒歩1分

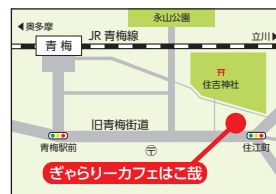


青梅夜具地を再利用したノートやバッグが購入できるお店

◆ ぎやらりーカフェはこ哉

(青梅市住江町7)

- ・電話 0428-22-0429
- ・営業時間 10:00～18:00
- ・定休日 月曜日・火曜日
- ・JR青梅線「青梅駅」より徒歩5分



【情報・写真提供】 青梅市商工観光課

本紙についてのご意見・ご要望は、ホームページの問合せフォームからお寄せください。

問合せフォーム▶



【発行日】2021年12月1日 【発行】公益財団法人 東京市町村自治調査会 【責任者】小暮 実
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館4F TEL 042-382-0068
ホームページ <https://www.tama-100.or.jp> (本紙のバックナンバーをご覧ください。)



再生紙を利用しています